平成16年（2004年）9月1日

廃棄物学会ニュース

No.82

The Japan Society of Waste Management Experts

廃棄物学会

第８期委員長就任挨拶

総務委員長
井手　義弘
(川崎重工業㈱)

今回、廃棄物学会の第８期総務委員長を拝命し、一層の貢献努力の思いを新たにしているところであります。力不足でありますが、皆様の御協力の下に頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。理事立候補の所信で述べた

１.企業にメリットある学会活動の積極的推進
２.学界、官界と産業界の協調ベースでの学会発展
３.若い技術者の教育、指導および育成の努力
４.環境対策の技術開発の合理的且つ経済的な促進

を念頭に会長と前委員長の指示による次のテーマを各委員と一丸となって推進する所存であります。

１.会員増強対策･･･公益会員・賛助会員の入会促進および退会防止の対策案の作成と実施
２.表彰のあり方の見直し･･･外へアピール出来るより活発な制度の構築、実利と有効な活用方法
３.選挙制度の検討･･･理念に合うあり方への変換
４.学会活動と財政の調和･･･予算の評価法、費用対効果、優先順位、予算超過の取り扱いの改善
５.その他･･･事務局と広報活動の強化など

この実行にあたっては、役員はもちろん全会員の実際的なご支援とご助力をお願いいたします。

第８期　総務委員会

委員長	井手　義弘	(川崎重工業㈱)
幹　事	浦　　満彦	(鹿島建設㈱)
〃	片柳　健一	(㈱環境管理センター)
〃	中田　清志	((財)日本環境衛生センター)
委　員	石渡　和夫	(川崎市)
〃	金子　栄廣	(山梨大学)
〃	河端　博昭	(㈱神鋼環境ソリューション)
〃	貴田　晶子	((独)国立環境研究所)
〃	木村　哲雄	(㈱クボタ)
〃	小泉　　明	(東京都立大学)
〃	小林正自郎	(東京都)
〃	手島　　肇	(㈱タクマ)
〃	西川　光善	(㈱環境技研コンサルタント)
〃	福井　　博	(神奈川県)
〃	八木　美雄	((財)廃棄物研究財団)

編集委員長
山本　和夫
(東京大学)

第７期に引き続き今期（第８期）も編集委員長を務めます。今期の理事選挙への立候補の際、以下のような内容の所信表明を行いました。「財政難の折、収入を確保する努力とともに、基幹事業である学会誌発行は、今後とも積極的展開を図る必要があると思います。前期では、査読システムの改善、電子ジャーナル化、和文論文図表の日本語表記取入れ等々、編集委員会として様々な取組みをしてきましたが、さらに和文・英文誌、Ｃ＆Ｇの調和ある発展を目指していきます。」

この所信は、現在も変わりません。具体的には、編集委員会予算の増加原因の解明と経費削減の努力、学会誌の広告戦略の見直しと新規広告提供企業の開拓、編集事務局の強化と長期戦略、和文論文誌査読システムの継続的改善、特集企画に対する学会員のニーズ把握、より質の高い英文誌にするための内容充実・発行回数の検討、英文誌編集委員の再構成、Ｃ＆Ｇの販売促進、市民向け学会ＰＲ誌としての位置づけ等々に、取り組んで行きたいと考えています。

２期目ということで、盛り沢山の抱負を述べました。編集委員会として、できるだけ有言実行となるよう、理事会とも連携して進めていきます。学会員の皆様からのご意見もできるだけ反映させて行きたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第８期　編集委員会

委員長	山本　和夫	(東京大学)
委　員	伊藤　秀章	(名古屋大学)
〃	植田　和弘	(京都大学)
〃	大迫　政浩	((独)国立環境研究所)
〃	大塚　　直	(早稲田大学)
〃	嘉門　雅史	(京都大学)
〃	小泉　　明	(東京都立大学)
〃	酒井　伸一	((独)国立環境研究所)
〃	阪田　裕作	(岡山大学)
〃	高見澤一裕	(岐阜大学)
〃	中杉　修身	(横浜国立大学)
〃	中村慎一郎	(早稲田大学)
〃	藤吉　秀昭	((財)日本環境衛生センター)
〃	松藤　敏彦	(北海道大学)
〃	森口　祐一	((独) 国立環境研究所)

年会委員長
澤地　實
(大阪市)

前期に引き続き年会委員長を務めさせていただきます。

今年の研究発表会は例年と多少趣を変え、香川県の高松市で11月17日(水)から19日(金)にかけて開催いたします。中国四国支部を中心とする現地の実行委員会と年会委員会は、会員の皆様に満足していただけるよう着々と準備を進めています。提出論文数も507編と過去最大となり、ポスター発表をより充実させるとともに、シンポや小集会の企画、豊島・直島への見学会なども参加案内にまとめ、さらに昨年のつくばから始めた予稿集のＣＤ化や液晶プロジェクターの使用を更に進め、より分かりやすく充実した発表会となるよう頑張ります。

首都圏以外の6支部が設立された現在、今後の開催は10年サイクルで、首都圏3回、関西2回、北海道、東北、東海北陸、中国四国、九州の各支部が1回、を原則とし、来年は仙台を予定しており、東北支部の皆さんのお世話になります。

研究発表会を盛大かつ円滑に開催するのが当委員会の最大責務です。一方、平成8年から始めた春の研究討論会の開催も当委員会の役割で、テーマ設定、企画進行等を研究委員会と連携して進めています。

これらの行事をセットするのは当委員会の役目ですが、主役は会員の皆様です。学会の最大行事へ、発表、質疑を含め多数の積極的参加をお待ちしています。

第８期　年会委員会

委員長	澤地　實	(大阪市)
幹　事	寺園　淳	((独)国立環境研究所)
委　員	大矢　仁史	((独)産業技術総合研究所)
〃	加藤　みか	(横浜国立大学)
〃	金子　充良	(㈱荏原製作所)
〃	川口　光雄	(㈱奥村組)
〃	香西　幸男	(川崎重工業㈱)
〃	近藤　康之	(早稲田大学)
〃	水流　純男	(パシフィックコンサルタンツ㈱)
〃	長森　正尚	(埼玉県)
〃	長谷川信夫	(東北学院大学)
〃	林　克彦	(前田建設工業㈱)
〃	日浦　朋子	((社)全国産業廃棄物連合会)
〃	宮脇健太郎	(九州大学)
〃	山口　直久	(㈱エックス都市研究所)
〃	渡部　英雄	(広島県立東部工業技術センター)

企画委員長
青山　俊介
(㈱エックス都市研究所)

―会員交流と社会との連携の拡充に向けて―

企画委員会では、例年、ウエステック共催シンポジウム、会員を対象とした講習会・技術セミナー、賛助会員向け特別セミナーを開催してきましたが、地方支部の設立、市民会員制度の立ち上げを契機に、広く会員や市民、企業などとの連携を促すより積極的なセミナー、研修会などの開催が求められています。また、学会活動の成果を社会に還元していく上で、学会としての出版事業の拡充の必要性も指摘されています。

第８期企画委員会では、こうした要請に応えるべく、地方支部を含めた一般会員や市民などを対象としたセミナー、研修会を学会ならではの内容をもって積極的に開催すること、廃棄物学会としての出版意図を明確にした上で出版事業を拡充することが重点課題となると考えています。

田中会長からは、企画委員会が学会活動の広範な展開により積極的に貢献するようにとの要請を受けており、この視点から活動方針を早急に詰めて、今後２年間の第８期活動を展開していきたいと考えています。

第８期　企画委員会

委員長	青山　俊介	(㈱エックス都市研究所)
幹　事	山本　耕平	(㈱ダイナックス都市環境研究所)
委　員	臼井　直人	(大成建設㈱)
〃	大澤　太郎	(川崎市)
〃	大嶋　茂男	(㈱ウィレント)
〃	大塚　康治	((財)日本環境衛生センター)
〃	香川　智紀	((社)全国産業廃棄物連合会)
〃	川本　克也	((独)国立環境研究所)
〃	纐纈　卓也	(日本技術開発㈱)
〃	玉出　善紀	(㈱タクマ)
〃	堤　恵美子	(㈱タケエイ)
〃	三村　正文	(石川島播磨重工業㈱)
〃	柳瀬　龍二	(福岡大学)

研究委員長
酒井　伸一
((独)国立環境研究所)

研究委員会を担当するにあたって
－廃棄物研究のプラットホームとは？

第8期の研究委員会を担当させていただくにあたって、廃棄物研究や循環研究のプラットホームの考え方と、学会としての研究のあり方を検討していく方向を簡潔に記すことでご挨拶に代えることとします。

学会が有するべき最大の機能は、一定の学術水準の研究成果を共有することにあり、そのために学術誌や研究発表会に代表される共通のプラットホームを共有していると理解しています。この点は学会と称する社会の固有の特徴の一つです。これらに加えて、研究委員会では特定の研究課題に取り組む研究部会を組織し、その活動を支援することを中心にした活動が行われています。こうした取り組みを継続的に実施しつつも、次の課題に取り組む所存です。つまり、学会としての研究・調査活動のあり方、研究支援・助成の位置付けについて検討します。前者は、学会自身が「研究する」態勢をつくり、廃棄物学会として社会的なアピールを行うのに適した課題はあるのか、そうした課題への取り組み方法を模索します。後者は、研究支援・助成の是非について、原点に返って検討し、学会が支援すべき研究活動は何か、とくに若手研究者への効率的な支援のあり方を考えます。こうした検討においても、学会活動の基本は学術的成果を共有し、理解を深めていくための基盤的プラットホームづくりにあることを再認識して進めたいと思っています。

第８期　研究委員会

委員長	酒井　伸一	((独)国立環境研究所)
幹　事	東條　安匡	(北海道大学)
委　員	荒井　康裕	(東京都立大学)
〃	占部　武生	(龍谷大学)
〃	大野　文良	(清水建設㈱)
〃	加茂　　徹	((独)産業技術総合研究所)
〃	北村　幸夫	(三菱重工業㈱)
〃	柴田　健司	(㈱大林組)
〃	竹内　　敏	((財)日本産業廃棄物処理振興センター)
〃	中石　一弘	(㈱イーツーエンジニアリング)
〃	橋本　征二	((独)国立環境研究所)
〃	羽染　　久	((財)日本環境衛生センター)
〃	古田　秀雄	(日本技術開発㈱)
〃	山川　　肇	(京都府立大学)

国際委員長
松藤　康司
(福岡大学)

国際委員会は、近隣諸国や世界の研究者との情報交換と我国の廃棄物研究活動の発信基地としての使命を持って活動してきました。

昨今の環境問題は、たきにわたり複雑化し、かつ、衛生面においては、SARS、鳥インフルエンザ、BSE 等々、国際的な取り組みが必要な課題も多くなっています。見方を変えれば、上記の諸問題は、国際的な視点での社会システムを含めた廃棄物の適正処理と大きく係っているとも言えます。

国際委員会の具体的な活動内容は、海外への窓口としての機能の他、①年会での企画性のある国際セッション、シンポジウムを充実させると共に、②10 年来の日韓交流を更に発展させ、アジア・太平洋地区の廃棄物関連組織とのネットワーク作りを第１の目標にしたいと考えています。また、③各種研究実施活動における若手の研究者、実務者の国際交流を高め、廃棄物を介しての平和と友好の輪を大きく出来ればと思っています。

更に 2004 年度、我国で開催される APLAS、ICLRS 他国際レベルの廃棄物関連学会、シンポジウムへの支援、並びに人材交流の協力が出来れば幸いです。そして、アジア・太平洋他多くの国々の方々との廃棄物分野における種々の経験を共有し、日本の廃棄物学会の存在をアピールできればと思っています。

第８期　国際委員会

委員長	松藤　康司	(福岡大学)
幹　事	四阿　秀雄	(東京都)
委　員	五十嵐堅治	(八千代エンジニヤリング㈱)
〃	奥山亀太郎	(川崎重工業㈱)
〃	斉藤　元明	(横浜市)
〃	坂口喜市郎	(㈱エックス都市研究所)
〃	佐野　敦彦	(㈱佐野環境都市計画事務所)
〃	島岡　隆行	(九州大学)
〃	志村　　享	(国際航業㈱)
〃	杉山　涼子	(㈱杉山・栗原環境事務所)
〃	鈴木　明郎	(石川島播磨重工業㈱)
〃	松本　公男	((独)国立環境研究所)
〃	宮川　　隆	((財)日本環境衛生センター)
〃	渡辺　泰介	((独) 国際協力機構)

総会・講演会・シンポジウム　開催報告

去る平成16年7月2日（金）、広島ガーデンパレスにおいて、平成16年度廃棄物学会中国四国支部総会および講演会・シンポジウムが開催された。

総会では中国四国各県からの28名の出席および93名の委任状提出を受けて、平成15年度の事業報告および決算報告が行われ、さらに今年度の事業計画および予算計画が審議された。

引き続いて約90名が参加する中、「ごみ減量・リサイクルをどう進めるか～容器包装リサイクルを中心として」をテーマとした講演会・シンポジウムが開催された。まず(社)全国都市清掃会議の庄司元氏から「リサイクルの現状と動向－市町村から見た課題」と題する講演があり、ごみ処理とリサイクルの違いを認識し、自治体の役割を考えていくことの重要性が述べられた。続いて、庄司氏に加えて広島市環境サポーターで環境カウンセラーの岩地加世氏、広島市環境局の田原範朗氏がパネリストとなり、浮田正夫支部長（山口大学工学部）の進行でシンポジウムが行われた。プラスチック製容器包装のリサイクルに対する行政の取り組みとそれに対する市民の意見などパネリストからの話題提供を踏まえて、容器包装リサイクル法の問題点や今後の取り組み方について活発な意見交換がなされた。講演会・シンポジウム終了後の懇親会にも多数の参加者があり、交流を深めるよい機会となった。

（樋口隆哉　記）

▲　シンポジウムの様子

平成16年度廃棄物学会賞候補者募集

平成16年度廃棄物学会賞の推薦募集をいたします。下記要項により、奮って推薦応募されますようお願いいたします。

推薦要項

1．表彰の種別：

1)**廃棄物学会大賞**
　廃棄物学の進歩、廃棄物事業の発展に貢献し、顕著な功績があった者

2)**廃棄物学会功績賞**
　本会の運営に顕著な功績があった者

3)**廃棄物学会有功賞**
　廃棄物学に係わる技術等の進展に顕著な貢献があったと評価され、画期的な業績をあげた者

4)**廃棄物学会論文賞**
　廃棄物学において、独創的な研究開発ならびに技術に関する論文の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者

5)**廃棄物学会著作賞**
　廃棄物学に関する著作の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者

6)**廃棄物学会奨励賞**
　廃棄物学のうち、限定された範囲項目についての独創的な学術・技術・製品などで画期的な業績をあげた者

2．受賞候補者の資格：廃棄物学会賞受賞候補対象者は、個人又はグループ及び団体とする。個人の場合は原則として本会会員とし、グループ（5名以内）の場合は、グループの中に本会正会員が1名以上参加し、対象業績に主要な役割を果たしていること。また、団体は原則として、本会の公益会員及び賛助会員とする。

3．候補の範囲：表彰種別のうち廃棄物学会論文賞、同著作賞および同奨励賞については、受賞候補年度よりさかのぼり、原則として2年以内に功績又は業績をあげた者とする。廃棄物学会大賞と同功績賞及び同有功賞については期間に制約をおかない。

4．推薦の制約：同一の候補者に対して、同一の推薦者が、2つ以上の各賞の候補として推薦することは認めない。

5．応募の方法：本会正会員の3名の推薦によるものとする。

6．表彰の方法：表彰審査委員会で慎重に審査の上、入賞者には表彰状および記念品を贈呈する。

7．表彰の時期：表彰は平成17年度廃棄物学会定期総会において行う。

8．提出書類：申請には本会の所定様式（廃棄物学会賞推薦書様式）に従って必要事項を記載し、1件につき正1通、副2通（コピーで可）の計3通を提出するものとする。

9．提出締切日：平成16年12月10日（金）必着

10．提出先(送付先)：廃棄物学会事務局　表彰担当

※推薦書の請求およびお問合せは、廃棄物学会事務局まで

廃棄物学会主催シンポジウム開催案内

―循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント―

循環型社会の構築にあたっては、廃棄物分野における様々な技術・施策の選択肢について、経済性・資源消費・環境負荷など幅広い視点から定量的に評価するとともに、最適な技術と施策の組み合わせ、すなわち「戦略的廃棄物マネジメント」を設計することが必要である。

また、欧米においては、廃棄物分野において LCA の評価体系を組み込んだ意思決定支援ルーツの開発、及び自治体の政策形成プロセスへのツール適用が進みつつある。そこで、本シンポジウムは、これらへの岡山大学 21 世紀 COE プログラムの取り組み紹介と、先進的に取り組んでいる欧米の研究者の講演をいただき、あわせてパネルディスカッションにおいて、政策決定の課題と将来展望を来場者とともに議論する。

テーマ：「廃棄物マネジメントにおける戦略的政策形成・計画策定」

プログラム：

シンポジウムの趣旨　田中　勝氏（廃棄物学会理事・岡山大学）

講演

・岡山大学 21 世紀 COE プログラムにおける戦略的計画ツール開発の取り組み　田中　勝氏　(岡山大学)

・米国におけるツールの開発動向及び政策決定への活用の現状について（仮題）　Prof.Morton A.Barlaz（米国・ノースカロライナ州立大学）

・ドイツにおけるツールの開発動向及び政策決定への活用の現状について（仮題）　Mr.Jurgen Giegrich(ドイツ・ハイデルベルグ IFEU 研究所)

・英国におけるツールの開発動向及び政策決定への活用の現状について（仮題）講師未定

パネルディスカッション

「循環型社会に向けた政策形成・計画策定における課題と将来展望」

開催概要

日　時：2004 年 11 月 25 日（木）13 時～16 時 30 分

場　所：幕張メッセ国際会議場 301 会議室

主　催：廃棄物学会・岡山大学 21 世紀 COE プログラム

参加費：会員3,000円　学生会員1,000円　非会員5,000円

申込み方法：下記に直接申込みください。

日本廃棄物会議実行委員会事務局

〒104-0045 東京都中央区銀座 3-15-8 エッグビル 3 階

国際コンベンション㈱内　担当；岡田

TEL：03-5565-0531、FAX：03-5565-9550

（このシンポジウムは、ウエステック 2004 併催の日本廃棄物会議参加事業です。）

【お知らせ】

第3回アジア・太平洋埋立国際会議(APLAS)北九州 2004 プログラム

前号でもお知らせしましたが、アジア・太平洋埋立国際会議が北九州市で開催されます。3 回目の今年は約 20 カ国から 120 を超える研究発表とイタリア・中国・韓国からのゲストによるレクチャー、また国内外 30 の企業や研究会等が展示ブースを設け、最新技術を紹介します。会議期間中のスケジュールは次の通りです。

APLAS Kitakyusyu 2004 スケジュール表

	10月27日（水）		10月28日（木）		10月29日（金）		10月30日（土）
	会場 A	会場 B	会場 A	会場 B	会場 A	会場 B	
8:00	受付		受付		受付		8:30 施設見学（響灘処分場・北九州エコタウン実証研究エリア）
9:00	9:00 開会式		9:00 キーノートレクチャー (Dr. Xu,中国 45分.)		9:00 キーノートレクチャー (Prof. Cossu,イタリア 45分.)		
	休憩		9:45		9:45		
9:30	9:30 キーノートレクチャー 10:00 (花嶋先生,30分.)		休憩		休憩		
10:00	休憩		10:00 セッション		10:00 キーノートレクチャー (Prof.Lee,韓国45分)		
	10:30 セッション		D1	E			
11:00	A2	C2			11:00 セッション		
					F1	G	
12:00	12:30		12:20		12:40		12:30
13:00	昼食		昼食		12:50 13:20 閉会式		
					昼食		
14:00	14:00 セッション		14:00 ポスターセッション		14:30		
	H	D2-1					
15:00			15:30				
			15:30 セッション				
16:00	16:20		B1	C1	施設見学（北九州エコタウン総合環境コンビナート）		
	休憩						
17:00	16:50 セッション						
	A1	D2-2					
18:00	18:30		17:50		18:00		
	休憩		休憩		休憩		
19:00	ウェルカムパーティ		18:10 セッション		18:30		
			F2	B2	フェアウエルパーティ		
20:00			19:50				
21:00							

日　時：平成 16 年 10 月 27 日(水)～30 日(土)

会　場：北九州国際会議場 他

参加費：一般　55,000 円　　学生　25,000 円

申込み・問合せ先：APLAS 事務局(北九州市環境局環境産業政策室内)　担当；大庭・吉田

TEL：093-582-2630、FAX：093-582-2196

E-MAIL：aplas@bz01.plala.or.jp

※会議参加には事前登録をお願いします。申込み用紙（参加登録書）は APLAS ホームページ(http://www.aplas.jp)から入手してください。

セッションテーマ

Ⅰ学術論文

A.埋立地コンセプトと計画

B.埋立地設計と建設

C.埋立地管理一般

D.埋立ガスと浸出水処理

E.有害廃棄物埋立

F.跡地管理 / 埋立地修復

G.その他埋立関連事項

Ⅱ カントリーレポート(H)

開発途上国(地域)における廃棄物管理と埋立

※スケジュールは変更の可能性がありますので、最終的なスケジュールは HP でご確認ください。

【お知らせ】

廃棄物学会共催
シンポジウム
「バイオマス系廃棄物のバイオファイナリー」

開催日時：平成16年9月21日(火)～23日(木)
開催場所：名城大学（名古屋市）
主　　催：日本生物工学会
参 加 費：無料
問 合 せ：〒501-1193　岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部
高見澤一裕
TEL&FAX：058-293-2906
E-mail：tak2003@cc.gifu-u.ac.jp

廃棄物学会後援
岐阜まるごと環境フェア2004 プレステージ
「バイオマスシンポジウム岐阜」

テ ー マ：太陽と自然の恵みで築く人と自然とまちの未来
開催日時：平成16年9月24日（金）10:00～18:00
平成16年9月25日（土）10:00～16:00
開催場所：岐阜市長良川国際会議場
大会議室及びメインホール
主　　催：バイオマスシンポジウム岐阜実行委員会
岐阜まるごと環境フェア実行委員会
参 加 費：無料
定　　員：大会議室200名、メインホール800名
問合せ・申込先：バイオマスシンポジウム岐阜実行委員会事務局（岐阜市役所・自然共生政策室内）
TEL：058-265-4141内線6402、FAX：058-264-7119
E-mail：kyousei-sei@city.gifu.gifu.jp

平成16年度会費納入のお願い

平成16年度の会費につきまして、正会員・学生会員の方には郵便払込取扱票を、公益会員・賛助会員のご担当者には請求書を送付させて頂いております。未納の方は、早急に納入下さいますようお願いいたします。

会員状況	H16.7.30現在 （ ）内は、H16.4.1以降の増減
正会員	3,523　（31）
学生会員	294　（-4）
外国人会員（DM）	25　（-4）
登録団体市民会員	3　（0）
公益会員	113　（1）
賛助会員	177　（-7）
計	4,135　（23）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.82　　平成16年9月1日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
印刷媒体は、古紙配合率100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.49 (July)発行のお知らせ

下記内容の英文ニューズレター49号が発行されました。
※JSWME NEWSLETTER は41号より電子配信のみとなっています。
最新号、バックナンバーは学会ホームページ(http://www.jswme.gr.jp)から入手できます。

主な内容
・新会長ご挨拶　：田中信壽 北海道大学教授
・法制度等紹介　：RDF製造・使用ガイドライン
・資格制度シリーズ　：公害防止管理者
・廃棄物学会の活動　：韓国廃棄物学会春季大会への参加報告

Contents of No.49

・ Greetings from the New JSWME President
・ Guidelines for the Production and Use of RDF
・ System of Pollution Control Managers
- Legal Framework of Waste Management in Japan -
・ Report on the 2004 Spring Conference of the Korea Solid Waste Engineering Society
・ Contents of Journal of the JSWME, Vol.15, No.3
・ Cartoon by High Moon: "Think Globally, Act lLcally"

☆☆事務局だより☆☆

今年の夏は記録破りの暑さでした。その間、オリンピックが発祥の地アテネで開催され、日本は予想以上の活躍をしました。また、甲子園では北海道、東北勢が活躍し、真紅の優勝旗が始めて津軽海峡を渡りました。北海道支部おめでとうございます。

一方では、例年とコースが異なる台風により各地で水害が発生し、災害廃棄物の問題が生じています。災害廃棄物に対して事前に発生時対応の準備、計画の策定を行っている地方自治体はまだまだ少ないと思われます。また、プラスチック廃棄物への対応が再びクローズアップされてきました。施設整備補助金の問題もあります。これらについて学会で議論が進むことが望まれます。

今回の学会ニュースは、前号で紹介した広報委員会が最初に編集を行ったものです。ニュースの構成内容は今の段階では従来と変わりませんが、委員会には若手のメンバーも加わりましたので、ホームページの内容も含めて新しい感覚で改善を図って参ります。また、事務局では広報活動や事務の効率化のために、ＩＴの充実を進めています。これについても広報委員会は支援を行って参ります。　(K. K)

次号（学会ニュース No.83）は11月1日発行予定です。